

中国 アナキズムの影

玉川信明 著

三一書房

「大きな影響を受けました」——まえがきに代えて

数年前、ある篤学な中国研究家に、中国共産主義とアナキズムとの関連性について尋ねたところ、言下に否定的な答えであった。否定的というよりは、てんからそんな問題意識は持ちあわせていないといったふうであった。

中国近代文学と政治については、詳しい知識を持っておられる人であるが、そうした研究家にあつて、なお「中国とアナキズム」は意識外にあるのである。しかしその研究家が愛する当の毛沢東は「中国の赤い星」の中で、エドガー・スノーに次のように語っているのである。

「私は無政府論についてのいくつかのパンフレットを読んで、それから大きな影響を受けました。しじゅう私の家を訪れた朱謙之^{ジュチエンジ}という名前の学生と、私はしばしば無政府主義や中国におけるその実現性について議論をしました。当時私は無政府主義の提唱する多くの議論に賛成していました。」

これは毛沢東が語った、唯一の青春自叙伝中の一部である。むろんその後には毛沢東は、マルクス主義者に転向するわけであるが、へ一度いったことは私は翻さない」という毛沢東であつてみれば、「それから大きな影響を受けました」「多くの議論に賛成していました」という言葉は重要な意味を持っている。その「影響」と「議論」は、その後の党史と今日の中国に、何らかの影を落していることが容易に想像できるのである。事実、中国共産党はその発生において、アナキズムと密接なつながりを持っていたのである。現代においては最も忌むべき思想とされているが、そのようないい方自体に、反措定として、中国にあつてのアナキズムの重要性が浮かび上がってくる。

中国共産党はしばしば世界共産党史にも稀な、ユニークな党とされる。そしてその特異性を伝統の側から云々されることが多いのであるが、更に伝統をも含む「アナキズム」という視点を加えることで、いっそうその特異な実体が明らかになるといふことがある。

仔細に検討すれば、中国を知る上において、アナキズムの視点を持つことは、次の二つの意味で有効性があるだろう。その一つは、一九四九年に至るまでの歴史を知り、かつ将来の展望を占うという意味で有効なのであり、その二つは、マルクス主義をもって国是とする現中共政治の歪みを知るのに有効な働きをする筈である。そのためにも、アナキズム自体の研究が必要

なことはいうを俟たないが、ここではつとめて中国に即した形でその流れを追いかけてゆきたい。

一九七一年六月、私はたまたま訪中の機会に恵まれた。その時の体験をも折りまぜて、時には極めて恣意的な「私の中国」を語ってみたい。

中国 アナキズムの影／目次

「大きな影響を受けました」——まえがきに代えて 3

第一章 中国アナキズムの基盤 11

- (1) 中国は農業社会 11
- (2) 自立的な宗教共同体 17
- (3) 農民叛乱と会党 23
- (4) 文人官僚と腐敗 28

第二章 伝統思想の中で 34

- (1) 道家の思想 34
- (2) ユートピズムと千年王国 39
- (3) 大同理想 45

第三章

- (4) 狂疾の世界 51
中国近代アナキズム 57

- (1) 日本在住アナキスト 57
(2) フランス在住アナキスト 63

- (3) 国内・アナキスト 69

- (4) 五四運動の主軸 75

- (5) その後の変転 81

第四章

- 日中アナキストの交流 88

- (1) 劉師復を援助する 88

- (2) 大杉の旅券を求めに 94

- (3) 上海労働大学 99

- (4) 泉州・民団訓練所 105

- (5) 中国のエスペランチスト 111

第五章

- 毛沢東と中国革命 118

- (1) 毛沢東とアナキズム 118

- (2) 農民運動の直接性 124

- (3) ルン・プロの軍、匪賊の党 129

- (4) 無政府の解放区 136

- (5) 老子の虚無思想 142

- (6) 阿修羅ニヒリズム 148

第六章

- 革命中国において 156

- (1) 方法は運動 156

- (2) 目標は平等 162

- (3) 総破壊の衝動 170

- (4) 中華人民公社 176

補章

毛沢東共産主義の形成

188

(5) アナルコ・ボルシェヴィズム 182

(1) 中国の伝統と精神性 188

(2) 毛沢東共産主義の前近代性 197

(3) 半封建制と共産主義の中の民衆 203

(4) 「政治優先」の矛盾 208

再び「一衣帯水」——あとがきに代えて

213